

秋山里奈、田中康大が金メダルに輝く!

金2、銀2、銅4と大健闘の合計「8個」のメダルを獲得 厳しい強化環境の中、地道な取り組みが結実!

障害者スイマーの最高峰の大会であるパラリンピック競技大会(水泳)が、ロンドン五輪終了後の8月30日~9月8日の10日間、競泳と同じロンドン市内のアクアティックセンターにて開催された。16名が出場した日本は、金2、銀2、銅4と、北京大会の金1、銀2、銅3を上回る好成績。日本全体でのパラリンピック獲得メダル数が計16個だったことから、この水泳が獲得した「8個」の素晴らしさがわかるだろう。ここでは、水泳チームのヘッドコーチを務めた峰村史世氏の話をもまえ、選手が戦い抜いた大会の様子、そして今後へ向けた課題・展望をお伝えする。

情報提供◎日本身体障害者水泳連盟

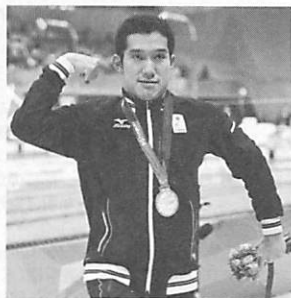
構成◎桜間裕子

写真◎日本身体障害者水泳連盟、エックスワン、AP



▲全盲の秋山里奈は8年越しの夢、金メダル獲得を実現させた

▼知的障害の田中康大は、うれしさのあまり、表彰式でもノリノリのポーズで会場を沸かせた



ふたりの金メダリスト

秋山里奈

~切り開いた新境地~

何度も、何度も、握りしめた拳を突き上げ、秋山里奈は喜びを爆発させた。大会4日目に行なわれた100m背泳ぎ決勝。2位と0秒12の僅差を制し、1分19秒50のタイムで優勝を手に入れた。どうしても欲しかった金メダルだ。

8年前のアテネ大会で銀メダルを獲得するも、北京大会では出場選手数の関係でこの種目が廃止されるという不運に見舞われた。ロンドン大会でこの種目が復活し、この日を待ちに待っていたというのに、午前中の予選では思うような泳ぎができず落ち込んだ。予選を終えると、こらえきれず泣き出した。失敗を恐れて土壇場で尻込みするという秋山の悪いパターンに陥りかけた。

全盲の選手には、タッピング(タッピング棒でターンやゴールの際にたたいて合図する)を担当するコー

チが招集所に入ることができるが、コーチングは禁じられている。招集所に入る前に、「前半を抑えて失敗したら絶対に後悔する。前半から行くという自分のスタイルを貫け」とコーチからアドバイスを受けたことで、秋山の迷いが吹っ切れた。

レース後「前半から積極的に攻めました!」と晴れ晴れと語った秋山。決勝前の気持ちの切り替えが生んだ金メダル。新境地を切り開いた。

田中康大

~合言葉、信じた金メダル~

田中康大にとって大本命の100m平泳ぎ。「世界新記録で金メダル!」をずっと思い描いてきた。中学進学後、千葉県の名門スイミングクラブである柏洋スイマーズ柏で山本靖子コーチの指導を受け、才能が開花した。しかし、山本コーチは昨年9月に他界、その後は、周囲の助けを得ながら母親との二人三脚で歩んできた。

しかしレース前、いつもとは違う会場の雰囲気緊張し招集所から逃げ出してしまう。そんなとき、日本

チームのコーチングスタッフと掛け合う合言葉がある。「ヤスなら?」と田中が言い、「できる!」とスタッフが答えると、田中は招集所に戻り、臨戦態勢に入った。田中のダイナミックな泳ぎは、他者を寄せつけず、予選で自らが樹立した世界新記録をさらに0秒39上回る1分6秒69で優勝した。

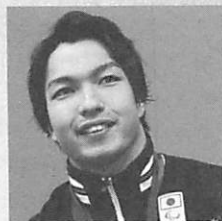
表彰式では、首からかけられた金メダルをうれしそうに眺め、次にプレゼンターから渡されるはずのブーケを、トレーから取ってしまうというハプニングが起こったが、1万7000人の観客は拍手喝采。そんな状況もお構いなく、大きく息を吸い込み、何度もブーケの香りを嗅いだ。世界一、いい香りに包まれながら、一番高い位置に揚がる日の丸を見つめていた。

誇らしきメダリストたち

男子躍進!

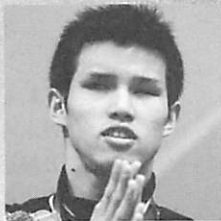
中村、鈴木、木村、小山が続々

中村智太郎は、後半みことな追いつ



▲前回、50m平泳ぎで全メダルを獲得した鈴木孝幸は今大会は銅メダル。しかし日本水泳連の活躍は主将を務めた鈴木をキャプテンシーによるところが大きかった

▼右上下肢に麻痺がある小山恭輔は50mバタフライで2大会連続のメダルを獲得



▲全盲の木村敬一は5種目に出場し、銀と銅のふたつのメダルを獲得した



▲銀メダルを獲得した中村智太郎は、両腕がないためキックのみの力強い泳ぎで銀メダルを獲得



▲応援にも熱が入る



上げをみせ、100m平泳ぎで銀メダルを獲得した。アテネ大会で銅メダルを獲得しながら北京大会で5位と転落、その翌年の中村の生命線ともいべき両膝の半月板手術を乗り越えての銀メダルは、ベストタイムの更新こそなかったものの喜びもひとしおだったに違いない。不安や焦り、懸命のリハビリ、トレーニング、これまで経験したすべてが、メダルへの道につながっていた。「手術していなければ、この色のメダルはなかった」と、思いをかみしめた。

日本選手団旗手としての大役を務めた木村敬一は、狙っていた50m、100m自由形ではメダル獲得を逃したものの、100m平泳ぎで銀メダル、100mバタフライで銅メダルを獲得した。出場の5種目中3種目で自己ベストを更新するも、本命種目ではメダルに届かず悔しい思いを味わい、課題も残ったが、大舞台で実力を発揮、チームを引っ張る主軸へと成長し、今後が楽しみな存在となった。北京大会からの連覇に臨んだ鈴木

孝幸は、50m平泳ぎで積極的なレースをするも逆転され3位となった。また、得意の平泳ぎで怒涛の追い抜きを演じた150m個人メドレーと合わせて、2個の銅メダルを獲得した。「今できることはやった」と冷静に語ったが、悔しい気持ちを心の奥底に秘めて大会を終えたに違いない。この奥底の「気持ち」をどこにぶつけるのかは現在のところ未定だが、北京大会に続きチームキャプテンを務め、選手だけのミーティングを開くなど、鈴木が存在がチームの結束を硬くしたことは間違いない。

このほか、小山恭輔が50mバタフライで銅メダルを獲得した。北京大会で同種目銀メダルを獲って以来、長いスランプからの復活を遂げ、うれし涙の銅メダルとなった。

大会総括

リオ大会への展望と強化策

総メダル数8は素晴らしい結果だった。練習環境や資金繰りに恵まれない中、各所属単位でのコーチと選



▲今大会、大活躍だった日本の水泳チーム

ロンドンパラリンピック メダリスト一覧

| メダル | 氏名 | 所属 | 年齢 | クラス | 種目 | タイム |
|-----|-------|--------------|----|------|------------|---------|
| 金 | 秋山里奈 | 東京4TC/明治大大学院 | 24 | S11 | 100m背泳ぎ | 1:19.50 |
| 金 | 田中康大 | | 22 | SB14 | 100m平泳ぎ | 1:06.69 |
| 銀 | 中村智太郎 | バルボート彩の台 | 28 | SB7 | 100m平泳ぎ | 1:22.04 |
| 銀 | 木村敬一 | 東京4TC/日本大 | 21 | SB11 | 100m平泳ぎ | 1:14.00 |
| 銅 | 鈴木孝幸 | ゴールドウイン | 25 | SB3 | 50m平泳ぎ | 50.26 |
| 銅 | 鈴木孝幸 | ゴールドウイン | 25 | SM4 | 150m個人メドレー | 2:40.24 |
| 銅 | 小山恭輔 | コロプラスト | 24 | S6 | 50mバタフライ | 31.43 |
| 銅 | 木村敬一 | 東京4TC/日本大 | 21 | S11 | 100mバタフライ | 1:04.70 |

※年齢は大会初日現在

手の努力の賜物であることは間違いないが、さらに成果を得られた要因として、日本水泳連盟の理解や協力が挙げられる。大会前には国立スポーツ科学センターで練習や合宿を行なう機会に恵まれ、そこで知りえた情報や味わった空気が選手に与えた影響が大きかったからだ。

それらも要因となり、今大会で更新された世界新記録は70個という、すさまじい勢いで進化していく世界に、もうついていけないといった焦燥感を味わうことはなかった。しかし、各国が体系的に強化を行なっている現状の中で、日本は危機感を持たなければならない。「ロンドン大会が初出場だった選手はわずか1名であり、世界で戦える若手の育成がまだできていない。選手強化だけでなく、コーチングスタッフの確保・指導も充実させ、戦う集団にならなければならない」と今大会のヘッドコーチを務めた峰村史世氏は語る。4年後、またその先のパラリンピックへ、すでに新たな歩みが始まっている。